

令和8年度第1回鳴門市水道事業審議会 会議概要

開催日時：令和8年8月26日（水）10時00分から11時15分まで

開催場所：鳴門市水道会館3階第1会議室

出席者：審議会委員8名

【開発委員、五島委員、近藤委員、中岸委員、出葉委員、原委員、藤倉委員、
藤村委員】

鳴門市5名

【近藤企業局長（途中退席）、寺前参事兼水道事業課長、大和水道企画課長、
事務局2名】

欠席者：審議会委員6名

【岡田委員、芝野委員、田村委員、細岡委員、森委員、矢野委員】

開催次第

- 1 開会
- 2 企業局長挨拶
- 3 諮問
- 4 議事
 - （1）水道料金のしくみ
 - （2）現状と課題
 - （3）スケジュール
- 5 その他
- 6 閉会

会議資料

開催次第

座席表

鳴門市水道事業審議会運営要綱

鳴門市水道事業審議会委員名簿

水道料金のあり方について（諮問書）

資料1 鳴門市附属機関設置条例（抜粋）

資料2 水道料金のあり方について

資料3 徳島県内の他市等の水道料金等一覧表

資料4 口径別の水道使用者の利用状況

会議概要

- 1 企業局長の開会挨拶後、会長に対して水道料金のあり方について諮問を行った。
- 2 議事（１）、（２）、（３）について、資料２、資料３、資料４を用いて事務局より内容の説明を行い、質疑を行った。質疑の概要は別紙のとおり。

【別紙：質疑概要】

・議事（１）水道料金のしくみ

・議事（２）現状と課題

（委員）

共同浄水場が稼働したことにより、給水コストが上がったかどうかを教えてください。水需要が減少していることは承知しているが、水道料金の改定にあたっては、共同浄水場が稼働したことにより、給水コストがかかっているということを利用者にしっかり説明していただきたい。給水コストが下がっているにもかかわらず、料金を改定するという説明は難しいと考える。

（事務局）

共同浄水場が稼働したことによる具体的な給水コストへの影響については次回の審議会でお示しさせていただく。

昨年度までは鳴門市単独で浄水場施設を維持管理していたが、令和８年４月から共同浄水場が稼働し、北島町と共同で運営することから全体の管理費用を双方で負担している。

共同運営によるコストメリットについては、予算ベースでの大まかな削減額であるが、対前年度比、約１千万円弱となっており、コスト削減に努めている状況である。

（委員）

１点目、鳴門市内で空き家が増えていると考えるが、空き家に対する給水状況について伺いたい。閉栓の申し出がある場合、水を止めると思うが、何も申し出がない場合、基本料金を徴収しているのか。

２点目、量水器の取付数と稼働メーター数について、２つの数値に開きが出ている傾向があると思うが、これらの数値は把握しているのか。

３点目、物価高騰対策として基本料金の減免を実施されているが、どれだけの減収となるのか。

（事務局）

１点目、２点目の情報については、現状の数値を整理し、次回の審議会でお示しさせていただく。

３点目の基本料金の減免については、令和８年３月から令和８年８月までの６か月間行うこととしており、１カ月当たり約１千万円の基本料金を減免していることから、総額は約６千万円の減収を見込んでいる。また、減収分については、一般会計からの繰入金で補てんする予算を組んでいる。

(委員)

水道は生活に欠かせないものである。今後、使用水量は減っていくことから、水道料金の値上げについてはやむを得ないと考える。生活が苦しい人にとっては、厳しい声をいただくかもしれないが、ある程度の目安を作って、他市の状況も見ながら、上げ幅を慎重に検討いただきたい。

(委員)

近年20%の増額改定があったと思うが、これは資料中の料金改定の変遷の中に記載がないのか。

水道事業ビジョンを10年計画で策定しているが、計画期間中に基本料金の改定も含め3年から5年の間に値上げを実施するというのか。

(事務局)

直近の改定は平成31年であり、資料中の料金改定の変遷の箇所で記載している。平成31年4月の料金改定以降は、基本料金や従量料金の増額改定は行っていない。

料金改定の時期については、例えば、改定時期を令和10年度と仮定し、料金算定期間を3年、4年、5年と設定して、その期間の原価を集計し、現行料金を何%引き上げる必要があるのか、という試算を複数パターン提示し、審議後、了承いただいた内容で進めたいと考えている。令和8年度以降、収支は純損失を計上する試算となっていることから、計画期間の後半というよりは、早い段階での料金改定を想定している。

(委員)

基本水量を設定している市町が多いが、使用水量5m³までの世帯数がいくらあるのか、5.1から10m³までがいくらあるのかなど、段階別使用水量の状況を整理すれば、基本料金の見直しにおいて、基本水量の設定という選択肢もあるのではないかと。そのようなデータは取れるのか。

(事務局)

段階別使用水量のデータは取れるため、最新の情報に整理し、次回の審議会でお示しさせていただく。

(委員)

管路の耐震化に力を入れていると聞いているが、送水管等の耐震化の進捗状況を教えてください。

(事務局)

送水管を含む基幹管路の耐震化率は令和 7 年度末で 44.1%であり、全国平均の水準に近づいてきた状況である。およそ 10 年前までは 20%台だったが、毎年約 8 億円の予算を計上し、管路の更新・耐震化に取り組んでおり、耐震化率は上昇している。

(委員)

未だ耐震化できていない施設については、100%に近づくよう早急に対応いただきたい。

・議事（3）スケジュール

(会長)

委員の皆様から要望やご指摘のあった資料については、次回に用意いただき、事務局として提示いただく資料と合わせて審議を進めたい。